

第2回 阿智村学校のあり方検討委員会 会議録

○ 会議日時 令和6年6月4日（火）午後4時

○ 会議場所 コミュニティ館 2階 ホール

○ 出席者 委員長：岡庭 潤 副委員長：伏木 久始 代田 昭久
委員：増田亜由美 熊谷 節子 井原 毅 近藤 忠雄
田島 佳世 熊谷 安倫 熊谷 直哉 上條 雪絵
関 雅夫 原 耕 小笠原和司 白澤 裕次
逸見 貴子 井原穂奈美 佐々木哲志 櫻井 朱

【教育委員会 事務局】

教育長：黒柳 紀春 教育次長：川上 悟 学校教育係：村田 浩一
学校教育専門主事：松澤 徹（全体進行） 川上 清宏 佐々木 豊
英語教育専門員：両角 明浩

（欠席 熊谷 和洋委員）

午後4時4分

1 開会の言葉 （松澤専門主事）

2 教育長あいさつ

委員の皆さまには公私ともにご多用のところ第2回学校のあり方検討委員会にご出席いただき誠にありがとうございます。

4月16日に開催されました第1回学校の在り方検討委員会から既に1カ月半が経ちました。会議の内容につきましては、村のケーブルテレビでの放映や広報あち等への掲載によって広く村民の皆さまに周知することができました。周囲の皆さまの反応はいかがだったでしょうか。話題提供となったでしょうか。その間、委員の方から村教育委員会ホームページに掲載した会議録の記載方法についてご意見をいただきましたので、正副委員長と相談の上、本日の協議題の冒頭で1点ご提案をさせていただきますのでよろしくお願いします。

さて、5月24日には小委員会が開催されました、書面でお知らせした正副委員長とD委員、I委員、C委員、H委員、F委員の8名で構成されます。この小委員会の位置づけ、役割でございますが、本委員会で検討する協議題について有識者として出席いただいている副委員長の伏木、代田両委員からこれまで研究・実践されてきた教育に関する論文や理論・成果、また今日的課題や話題等を参考意

見として提供していただきながら、本会議にかける協議題の事前調整や運営・進行の打ち合わせをする会議でございます。

本日の協議題として準備しました、6月29日開催の阿智村の教育を考える全村フォーラムの持ち方や教育委員会が委員会に諮問した3つの内容について今後どのように検討して来年3月の中間まとめまでもっていくのか等について、5月24日の小委員会でご協議いただきました。

20名という大所帯で会議の運営・進行の細部まで検討するのは時間的にも難しく、少人数による小委員会を設けましたのでご理解をお願いします。

本委員会の協議の柱は村教育委員会が諮問しました3点について、まずは、「これからの阿智村の教育はどうあったらよいのか、子どもたちにどのような教育を提供していけばよいのか」委員の皆さまに来年3月の中間まとめをお願いしているわけです。その検討材料として、4月16日の伏木、代田両先生の発表や5月18日実施した東京学芸大学高橋純教授によるリモート講演会「明日の教育を考える」、また6月29日に行われる全村フォーラムにおいて同じく伏木、代田両先生の基調講演をお聞きいただき、それらの考え方をたたき台に協議を積み重ねていただきたいと存じます。

教育委員会事務局ではさらなる検討材料として今後、先進地域の学校視察や必要に応じた住民アンケート等も提案させていただきますのでご承知おきください。

それでは、本日の学校の在り方検討委員会、よろしくお願いいたします。

3 委員長あいさつ

それでは、皆さん、改めましてこんにちは。お忙しい時間にご都合つけておこしいただきまして、ありがとうございます。

第1回の学校あり方検討委員会が4月16日にありまして、その後、5月18日の講演会を視聴いただきました。また、ケーブルテレビの第1回委員会が放映される中で、この検討委員会は多くの村民の方々に認知されてきたのではないかと思っております。しかしながら、ここで私も含めて認識を間違わないようにしないといけないと思っているのは、4月半ばに人口戦略会議が公表しました消滅可能性自治体に阿智村がランクインされたことによりまして、あたかもこの委員会の目的が小学校の統廃合ありきであるかのように書かれてしまいかねないという現実があります。しかしながら、この委員会の使命は、持続可能な学校であるための具体案を教育委員会に示すことであるということを忘れてはならないと思って、伏木先生がおっしゃられておりますけれども、未来を生きる子どもたちにとって多様で柔軟性のある学習環境をどう実現していくのか、中教審の言う個別最適な学びと協働的な学びを阿智村はどのように実現していくべきであろうか、日頃、抱いておられると思いますけれども、お考えを十分にこの場で出して

いただきまして、委員会へ答申してまいりたいと思いますので、短時間の会議ですけれども、ご意見を端的にまとめていただいて、できれば全員の皆さんにご発言いただきますようお願いしたいと思いますので、挨拶・依頼させていただきます。本日、よろしくお願いします。

4 協議

(1) 会議録の扱いについて（川上教育次長）

今後の委員会等の会議録について提案をさせていただきます。教育委員会事務局、また委員長以外の委員につきましては、氏名ではなく発言順にA委員、B委員、C委員…で記載させていただきたいと思います。

また、次回会議の時は、改めて1番初めに発言いただいた方からA委員、B委員、C委員…という方式で提案させていただきます。よろしくお願いします。

①委員長

それでよろしいでしょうか。ありがとうございます。（異議なし）

それでは、会議録の記載方法はこのようにやりたいと思います。よろしくお願いします。

②A委員

違う方向で確認を取りたいです。学校のあり方委員会という、今この委員会なのですけれど、今やっていることは学校教育のあり方なのか。自分、ちょっと考えていくと、学校のあり方という施設が主だったのかなって思いながら、そういう思い込みできたんで、そのあたりを少し、先生たちが言われている方向にこの会議は流れていくんじゃないかな、というような考えがありますけれど。その学校と学校教育、今やっていることはイコールなのかというのをちょっと確認をしたい。

③教育長

4月16日にお配りした諮問内容3点について検討していただく委員会ということです。1つ目が、今後の時代を見据えた学校と地域との関係性について、2つ目が持続可能な学校のための教育理念や目標、制度等について、3つ目がこれからの子どもたちに育むべき知識や能力について、お示ししておりますので、回数は限られていますけれども、1から3まで検討をして答申をいただくということです。今のE委員の発言ですと、この両方が会議の検討内容に入っていると私は考えております。

④A委員

どう答えていいかわかりませんが、聞いている人たちは、伏木、代田両委員の方針に多分流れていくという感じがするのですが、他の有識者の方針はここでは聞かないという方向なのでしょうか。

⑤教育長

他の自治体のあり方検討委員会でも、今の教育の現状に詳しい有識者を委員として出席いただいております。お二人の考えというよりは、お二人の委員を通じて様々な考え方、今の教育の動き、そういう知識や情報を提供していただくという意味で申しております。おそらくどの自治体でもそうですけど、まったくのゼロベースから検討を始めることはございません。私も教育委員会は自信を持ってそういう委員の方を選んでおりますので、ぜひ、色々聞いていただいて、検討の参考にさせていただきたいと存じます。この点については、お2人とも承知していただいております。ご理解をお願いします。

⑥A委員

他の委員の意見もあると思いますので、そこら辺はとにかく、自分たちはもう学校教育から離れているので、今の学校教育の進んでいる方向がよくわからない。委員さんたちには失礼かもしれないけれど、もう少し 現役の委員さんたちを入れた方が良かったのではないかなとは思っています。

⑦委員長

私も、最初この委員会に招集され最初に認識したのは、少子化になるので学校施設をどうするのかということかと思いました。実際関わらせていただくとそうではなく、その地域が学校をどうするか、学校が地域をどのように捉えるかということを考えることだと感じるようになりました。この危機的な少子化の中で、地域で暮らしている我々にとって、教育は1番大事なところですので、このタイミングで協議する必要があって検討委員会ができたと思っています。特に、伏木、代田両委員が委員として来ていただいているのは、この長野県とか飯田市を含めた地域をフィールドワークにして天龍村も含めて全て把握しておられ、いろんな示唆をいただける方々なので、非常にいい指導者を得ながら進められるのかなと感じています。

現役のお父さん、お母さんが教育委員会に対して要望する場は別にあってもいいと思うのですが、子育てを終えた我々が責任をもって、現在の教育や次の未来に生きる子どもたちの教育のあり方に対して論じるというのは非常に意味のあることだと思います。ぜひ最後までお付き合いいただきたい。

⑧伏木副委員長

ご心配に少しお答えしようと思います。私自身は、文部科学省での動きとかを踏まえてご紹介する、それから長野県の方針を受けて皆さんに情報提供する立場と思ってここにきました。今、世の中ではこう動いて、学校の先生方も耳にはしているけれども忙しくて、そんなことを落ち着いて考える余裕がないと言っているのです、一步引いた私たちから、今先生たちはこう思われているということをご紹介する視野で資料提供していきます。現役の校長先生もおられますが、かなり精通されている方ですので、そういう先生たちからも意見がいただけたらと思います。

⑨代田副委員長

伏木先生の意見と同じになってしまうのですが、私も伏木先生も村の方針を伝えた記憶はありませんしそういう考えはないので、2 人の方針に追従するのではないかということについては、やはり誤解がないようにここで否定させてもらいたいと思います。私自身、今まで、東京で校長を、佐賀で小学校の校長を務めました。そうした経験の中で、今、教育がどのような形になるのかについては少し専門的な内容もありますので、紹介しながら方針自体はこの2 年間みんなで考えていくと考えています。

⑩B 委員

私も先ほどからいただいている内容については、教育の場を離れてしまっている方々や世代の方々にもこうした話をしっかり議論していただくというのは非常に大事ではないかと思います。私も現役の保護者ではありますが、実際にこういう話は学ぶ機会がなかったもので、とても参考になるので、この時間を大事にさせていただくのがいいと思います。

ただ、地域の方から、保護者の皆様の関心が非常に高いということを感じております。その中で、直接いただいたご意見から子育ての現役世代や関わっている世代が少ないのではないかと思います。一応、私も保護者の代表という形で選任いただいているわけですが、あくまで住民の私が代表で委員になっているという形ですので、現役の保護者会、また PTA などの組織にもしっかり入り込んで意見収集をしてくれるのかという心配があるという現役のお父さん、お母さんからの要望がありますので、合わせて対応させていただきたいと思います。

⑪教育長

委員会のメンバーは様々な職業や立場の方に出席いただいているわけです。ここが大事なところで、教育関係者や当事者だけで話し合いをするのではな

いと思っています。委員の皆さんにお願いしたいことの1つは、皆さんの立ち位置、選出母体との関係性です。例えば、自治会の代表で出席いただいている皆さんには、それぞれの自治会で報告をしていただき話題にしていったり、声を吸い上げたりしていただきたい。PTA 関係の方であれば学校や保護者の間で話していただけるようお願いします。

委員の年齢構成は、比較的バランス良く構成できたと思っております。人選については、事前に議会や村長部局に、こういう分野毎に選出したいということを諮って了解を得て進めてきたことであります。教育委員会だけで判断してきたわけではありませんので、それはご理解いただきたいと存じます。

ここで話し合われた内容は、以前にも申しましたが、各学校 PTA と各自治会に対して、現在こんなことを話し合っていますとの資料を提供して、ご意見を伺う機会を持てまいます。また、それとは別にパブリックコメントやアンケートみたいなものをどう実施するかについても委員会にご提案してまいりますので、ご承知ください。

⑫C 委員

この検討委員会の情報公開について関連で質問したいと思います。先日の小委員会でもお聞きしましたが、傍聴をしたい人は原則として傍聴できると前回の公開のガイドラインで私は考えたのですが、小委員会の時に委員の皆さんに諮ってそのようなお話を決めたいとのことだったと思うので、今日決めていただけるということでもいいのですか。

今日その答えをお聞きできると思ったのでお伺いしたいと思います。

⑬教育長

4月の第1回の会議において、検討委員会情報公開ガイドラインをお配りして確認を取っておりますので、資料を見ていただきたいと思います。今日も後ろに記者の方が傍聴しておられます。この検討委員会は、基本的には開かれた委員会だと思っておりますので、原則として傍聴を拒むことはないということです。ガイドラインの1番最初に、「会議は、阿智村学校のあり方検討委員会委員長の許可を得て傍聴することはできる、ただし、委員長が秘密会としたいとした時はこの限りではない」としてあります。

もし、自分たちで自由な発言をする時に傍聴者がいると発言しにくいというような場合には委員長さんに言っていただくか、委員長さんの方で判断してご提案していただき、委員会として「今回の会議は自由な発言をしてもらうよう秘密会にしたい」と決めていただければ良いと思います。

⑭C委員

毎回、皆さんに今回は公開してもいいかどうかを委員長が聞いて、委員の同意を得たところで傍聴するかしないか決まるということですか。

⑮教育長

基本的には傍聴はできるとしているわけです。毎回、委員会に諮って秘密会するか傍聴を認めるか決めるのではなく、委員の皆さんから、また委員長さんの判断で委員会に図っていただいて秘密会にすることはあり得ます。議会もそうですが、基本的に傍聴は認めているわけですので、秘密会が原則ではないわけです。

⑯伏木副委員長

では、第3回目の会議はどうするのかを会議の終了時に確認した方がいいのではないのでしょうか。ここに来られて、今日は秘密ですというようになる可能性があるのも、それはまずいのではないのでしょうか。

⑰委員長

では、お諮りします。今、伏木委員がおっしゃられたように、会議の終了に際して、次回の会議を公開するか非公開にするか、傍聴を認めるか認めないかということをお諮りしながら会議を進めていく。ただし、教育長のおっしゃるように、基本的には全て公開ということの中で運営しているということではよろしいのでしょうか。（各委員承諾の様子）

では、決議ではないですが、このような形で取り組みをさせていただきます。

⑱教育長

会議の終了時に、次の会議の傍聴について委員に諮って決めていくということですね。

⑲委員長

承知しました。小委員会でも委員会でも、秘密会にする時には会議の開催通知に入れることでよろしくお願いいたします。

次に、第1回小委員会の概要につきまして、報告を事務局からお願いします。

(2) 第1回小委員会の概要報告（事務局 松澤専門主事）

5月24日の第1回小委員会で話題となったこと、協議内容を報告します。

1点目は、第1回委員会での代田委員の講演、高橋先生のオンラインでの

講演会の感想や意見交換をしました。高橋純先生の講演会ですが、ご覧いただけましたでしょうか。タブレットにも高橋純先生の講演について載せてありますのでご確認ください。ご覧になってない場合には見ていただければと思います。チラシのQRコード読み取っていただければ読めますのでお願いします。

2点目です。阿智村の教育を考える全村フォーラム、6月29日の周知について、また、運営方法の詳細を検討いたしました。タブレットのフォーラムの案内通知にそのチラシがあります。募集をかけておりますが、まだ参加の申し込みが少ないので、委員の皆さんからも積極的にお声がけをいただければと思います。

3点目、諮問の内容の確認と諮問の1に関わって、本日、D委員に話題提供をしていただくこと、事務局からメタバースの可能性についての情報提供、伏木委員からの資料提供をお願いしました。今後また検討いただければと思います。

4番目、今日について、幅広い様々な立場の方の声にも耳を傾けるということが大事であるというご意見をいただいたり、研修視察に行って研修を深めたいというご意見もいただいたりしました。

以上のことから、今日、その要項にありますような協議内容で協議をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○委員長

このことについてご質問等はございますか。（質問なし）

(3) 6月29日(土)阿智村の教育を考える全村フォーラムについて

① 提案・説明（事務局：松澤専門主事）

これはパドレットと言いますが、フォーラムのチラシの左側に実施計画が載っております。

フォーラムの実施計画の次第については、教育長挨拶、村長挨拶で、基調講演を伏木、代田両委員からいただきたいと思っています。その後の分散会の話題についても代田委員の講演で触れていただいて、分散会へつなげたいと思います。分散会は、45分くらいを考えております。内容は「育みたい力と課題」として、中学生にアンケートを行って載せたいと思っています。この1、2の項目を中学生にもこれからどんな力を育てたいですか、つけたいですか、というように聞いた項目であります。これを、模造紙に並べておいて、最初参加者が、3つ4つ私はこれを大事にしたいところに印をつけて、それについて意見交換をするという形で、6人から8人くらいのグループで分散会を作っていきたいと思っています。委員の皆さんには、2人ずつくら

いがペアになって、分散会のグループに入っていただき、世話係や進行の役割をお願いします。

全村フォーラムは「未来を担う阿智村の子ども 育みたい力と課題」というテーマで、会場は公民館 1 階ホール、8つのグループを想定しています。グループは、世代、性別、地域がバラバラになるようにして、なるべく色々な方と話ができるようにと考えております。委員の皆様は、当日 2時からですので、1時 40 分頃来ていただき、多くの村民の方の意見を聞いて、またこの委員会で活かしていただきたいと思いますと考えています。

②委員長

託児の件はどうなっていますか。

③松澤専門主事

案内には託児もできることを載せます。ただし、準備の関係で託児の申し込みは 13 日までとしてあります。QR コードでも申し込めます。

④委員長

保護者会は参加できそうですか。

⑤B 委員

そういう立ち位置にいないので把握できていません。

⑥委員長

ただ今のような方向で進めていただいて、活発な意見が出るように期待したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

委員の皆様には、先ほどのグループワークに入ることですので。よろしくお願いします。

次に、諮問内容についての意見交換を始めます。これにつきまして代田副委員長よりお願いします。

(4) 諮問内容についての意見交換

<諮問内容の確認と推進の概要について>

①代田副委員長

私の方でこの質問内容を皆さんと共有しながら、45 分ぐらい皆さんと意見交換をしたいと思っております。改めて諮問内容を確認したいと思います。

前回の委員会で、教育長から、諮問内容に対する答申を依頼されました。繰り返しになりますが、この 3 つの内容を自分事として委員の皆さんそれぞれ

れが話し合ってまとめていくのが一連の流れになりますので、この内容を改めて理解を進めていきたいと思います。

1 番目の「今後の時代を見据えた学校と地域との関係について」は、どういうことを言っているのかについて理解したいと思います。ちなみに、我々は3つの答申をしなければいけないという立場です。2つ目が、「持続可能な学校のための教育理念や目標、制度等について」です。3 番目は、「これからの子どもたちに育むべき資質や能力について」です。

阿智村の教育を考える全村フォーラムでは、3 番目の「これからの子どもたちに育むべき資質や能力」について全村で考える機会だとご理解いただければと思います。皆さんは、中学生や高校生も含む村の人が参加する各グループでファシリテートしていただきながら、子どもたちが未来に向けてどんな資質や能力がなければいけないと感じているのか、また、阿智村にずっと住んでいた人たちは、これからの阿智村にとってどういう力を子どもたちに付けたいのかということを、みんなで考えることそのものが大事だと思っています。

これは3 番目の諮問に関わる良いきっかけになると思いますので、そういう位置付けで考えていただければと思います。

2 番目は、「持続可能な学校のための教育理念や目標、制度について」です。私は、県外などの視察の機会がありますが、今、学校制度が大きく変わっているということを皆さんと共に学びたいと思っています。現在、カリキュラムや学級編制を自由にできるという制度改革が進んでいるので、学習指導要領どおりにやらなくてもいいという特例的な学校ができつつあります。個人的な思いですが、そうした学校ではどんな効果が出ているのかもみんなで調べてみんなで共有したいと思っています。これがいわゆる制度や目標を考える機会になると思っていますので、視察も含めて事務局で考えていただきたいです。

では、1 番目の「今後の時代を見据えた学校と地域の関係について」理解を進めたいと思います。冒頭ご質問があったように、統廃合の問題をどうするのかという心配が村の皆さんにあるということについて、私個人は、順序は逆の方がいいと思うのです。統廃合はいわゆるハードのことですよね。形をどうするかの前に、どういうものを作りたいかというソフトの部分を議論しないで統廃合を考えるというのは、なかなかうまくいかないと私自身は思っています。

そんなことを再認識した経験をお話しさせていただきます。先月上旬に、被災地である石川県の穴水町に行きました。そこで町長に呼ばれて現地の有識者会議でお話をさせていただく機会がありました。穴水町では多くの死者が出ました。石川県能登半島の輪島が日本海側だとすると内側の湾口にリア

ス式海岸、本当に綺麗な港湾があり、人口が 8,000 人の町です。小学校 2 校と中学校 1 校がある町で、元々、統廃合の議論をずっとしていたそうです。結論を出すタイミングで、小学校の統合は反対ということになり、町長も今後について難儀していたそうです。町の人たちが集まっても、マイナスから 0 にする議論がやっとで、未来が見えない状況でした。

私はその時に、ビルドバックベター(より良い復興)のお話をさせていただきました。ビルドバックベター、皆さんご存知ですか。これは、飯田市が昭和 22 年の大火後に、今よりもいい街づくりをしようという復興に向けた考え方です。今回、能登半島地震で町が焼けた面積は飯田市の 8 分の 1 で、飯田大火はすごい震災だったと思います。

その時に飯田市民がすごかったのは、今よりもいい街づくりをしようということで、延焼はしないように 15 メートル以上の防火帯を作ろうとしました。防火帯を何にするかというところで、飯田東中学校の校長先生、生徒がリンゴ並木にしようと提案しました。初めは議会にも反対されたのですが、最初の収穫が 4 個だったのだけれど、4 個のリンゴは全部盗られてしまいました。東中学校の生徒が「人の心も街も美しく」という呼びかけを進め、今では、リンゴ盗などが 1 人もいないといえます。いわゆる震災を機に新しい町が生まれたということです。そこに両陛下がみえて、「ビルドバックベターという震災復興の言葉が、もう飯田市では昭和 22 年にあったのですね」というコメントを残されたということで、ぜひ、ご覧いただきたいという話をしました。

北陸の震災も、マイナスからプラスにできるチャンスなので、みんなで考えましようと話をする、その場にいた鉄道の人が、「今までの発想だったら小学校の跡地だけど、可能性としては上水駅の近くにつくるのはどうだ」と自由な提案をしてくれました。新しい町づくりを壊れたものを統合しながらやる。要は学校の子どもたちの集まりやすいもの、町がもう 1 回集まれるようなものを再設計したらどうかという意見が出まして、とても嬉しかったと思いました。つまり、学校単体だけで考えていると今あるところに小学校を残そうとなってしまうがちですが、町長は国の補助金も出るだろうから、町全体をもう 1 回作り直して、これを機に本当に見違えるような町にしたい、学校だけでなく村人 8,000 人の幸せをどう考えるかという強いビジョンを掲げたのです。

これを聞いた時には、話してよかったなと思いました。つまり、学校単独で考えるのではなく町との関係性で考えた時に、学校のあり方は主従の関係ではないのです。お互いの関係で考えた時に新しいアイデアや子どもたちの幸せが出てくるのではないかと思うのです。

阿智村には何も無いのではないかという意見もあるかもしれませんが、私は伏木先生のアドバイスをいただいたのですが、村の商店街のメタバースを

見たことある人いらっしゃいますか。これも素晴らしいと思っていて、まさにこういうことをみんなが知って、これを学校や子どもたちのために役立てられないかというのを事務局でも少し意見、評価をしたので、ここのところ、事務局の方から参加者と共有させていただいてよろしいですか。

②松澤専門主事

スクリーンを見てください。村商工会のホームページには、メタバース商店街(仮想空間)があり、そこにこの古い阿智村の商店街を再現してあります。メタバースなので私がアバター(インターネット上の分身)になって入ることができます。この空間の中で私は、回って見る、歩く、走ることもできます。

これを学校教育でも使えないかと考えています。仮想空間ですので、クラウド上でこういう空間を作って、例えば、学校にはなかなか通えないというお子さんや不登校のお子さんがこの空間へ入り、色々な方とコミュニケーションをとることができます。先ほどのお店の中に入ることができます。メタバースの学校だったら、教室の中に入っていくこともできます。その中で、同じように入ってきた人と会話をすることもできる、あるいはそこで勉強を教えてもらうというようなことだって可能です。地域の人が来たら、地域の人と、この仮想空間ですけれども会話をするということもできるというようなことが考えられるのではないかと思います。

阿智村商工会ともタイアップして、アバターを動かしながら一緒にコミュニケーションができると思います。メタバースという空間は、学校と共存していくことが可能ではないかと思っています。

③代田副委員長

ありがとうございました。多分、県内の商工会としては初めてメタバースの事例を、教育に、子どもたちのために役立てたいという意見が出ましたが、他にも進めている事例がありますので、伏木先生に解説いただきたいです。

④伏木副委員長

私の研究領域の中で、その子に応じた教育、個別ですけれども、そういう中に、子どもの興味・関心がそれぞれの環境でより学びを深めるようにということで注目されている1つがこのメタバースです。宇宙空間のようにも見えるかもしれませんが仮想空間であり、クラウド上に作ったものです。ここに自分の分身で入ることによって、見知らぬ人と少しずつコミュニケーションができ、どの子たちも学ぶことができます。

文部科学省は、不登校の子たちが通うメタバース学校を出席扱いとしました。北海道や沖縄や長野県の過疎地域の学校の中を結んで、このメタバース空間の

中で共同作業をするとか、あるいはハワイの海岸でそのまま外国人と英会話ができるのです。お年寄りにとっては、これを使うと家にいて車椅子に乗りながら、クリックして買いたい物を注文することができます。それから、若い男性女性がこういう服着てみたいなって思った時に、自分のスリーサイズや身長、体重などを登録しておく、その服を着た時にどう見えるかがタブレット上、画面上で見えるのです。フィッティングルームに行く必要がないということなのです。あるソファをこの部屋のここに置いた場合どうなるかもスマホでそのまま投影することができるのです。そういう時代になっています。外科医だとか溶接工などもこの技術を使って、現実の空間とバーチャル空間を融合したものがすでにもう始まっています。

これがもうすでに教育というジャンルに入り始めて、阿智村がこれを採用するかどうかというのはこの会議で検討する内容だと思います。私が思うには、こういう検討会議で話し合う内容は、来年どうするか、再来年どうするかって話じゃないように思っていて、10年先、20年先のこの村で生きていく子どもたちにどういう環境を用意すべきか考える時に、こういうものも私たちは勉強しないといけないのだと思って、私の研究室でもメタバースの研究をやり始めました。

お手元に資料があるかと思いますが、この会のために書いたわけではなく、コロナ前の2019年7月に書いたものです。これは、公益社団法人信濃教育会という、長野県の教職員の多くが入っているととてもユニークな職能団体で出している雑誌です。ここから頼まれた原稿ですが、7ページの後ろから2段目、本稿ではここを要約してありますので、ピックアップしてちょっと読ませていただきます。

学校での地域学習が軽視されていた時代、私は61歳ですけれども、私たちの時代に関東地方で当たり前のように行われていた入試をターゲットにした授業の問題点を指摘し、それを克服する実践としての川口プラン等の実践を紹介した埼玉県の実践です。これは私が東京都内で小学校の教員をやっている時に地域を巻き込んだ「夢のまちづくり」という総合学習をやった話で、その上で地域学習ということを2つの論理に引き寄せて論じています。地域を学ぶことは地域を通して自分の在り方に気付き、自分の生き方を考える窓口になる学びであってほしい。そのためにも、これからの学校は既存の学校教育の常識を前提とせず、子どもたちの教育にとってベターなあり方を常に考え続けていくというポリシーこそが伝統となるべきであろう。ちょっと飛ばして、どんな時代になっても、生まれ育った故郷としての地域を知り、その地域の中で考え、地域から見える問題を発信する営みを大切にして、自分の故郷を愛せる人を社会に送り出すことが学校教育の使命なのではないだろうか。これがこの論文の趣旨です。これは学校の先生方に向けて書いたものです。しかも、コロナ前ですの

で、この検討会議にちょっと話として合うかどうか分かりませんが、この時にちょっとページを前に送っていただくと四角で枠囲みをしている部分があります。朝7時過ぎから運営されているという、2ページにわたるところですけども、これは、私がちょっと目をつぶって、20年後、どんな 学校と地域の関係になっているのか、何が望ましいのかを考えて創作した夢のようなものだったのですが、実はこの5年前に書いたものが、なんと多くがもう実現しているという時代に入りました。しかし、これはあくまでも全国を視野に置いて教育の先端を予想して書いたものであって、あちらの事情はまた別だと思しますので、少し参考になればとは思っています。これをどこまで皆さんに読んでいただくのか、ちょっと個人的には少し悩んだところであります。

⑤代田副委員長

小委員会の方でもこのような情報共有をしたわけですが、全委員の皆様にもこの地域とのあり方に関するご意見をお聞きいただこうということで、伏木委員にご発言をいただきたいということで、小委員会で決定させていただきました。私からも推薦したいのですが、やはり地域資源であった阿智村の星空観光というのを無視して学校作りはできないのではないかというか、むしろこれをどう活かすかという視点はとても大事じゃないかなと考えて、D委員に、今の話を受けながら、地域との関係性についてご意見をお聞かせいただきたいと思しますので、よろしくお願いします。

<話題提供>

⑥D委員

冒頭でA委員がおっしゃっていたこの会のあり方について私も、前回の小委員会でお話をさせていただきました。私は経済界の枠で参加をしているものですから、経済の視点で合理化であったりとか簡略化であったりとかコストカットとかというところで、統廃合の問題について私の方も話をさせてもらって、ある意味、そこが この会のゴールじゃないのかという議論までさせてもらいました。結果的に、私がそのゴールだと思っていたところが実はゴールではなかったというのは、先ほどおっしゃった通り、まだまだ十分に理解できていないですけども、その中で、他の皆さんの発言の中で、少子化の問題であったりとか、定住、移住の問題であったりとか、さっきの町づくりの問題であったりとかというところまでこの議論が2年間かけて、やる価値があるものだとは最終的には自分の中で納得をしました。一時は小委員を辞めさせてもらった方がいいのではないかと、さっきおっしゃ通りにここにいるべきじゃないのかという議論をさせてもらったんですけど、最終的には、将来の阿智村がどのように変わっていくかということがものすごく重要だなと思ったのです。その

1つが学校のあり方とか教育のあり方が この地域にもたらす影響がどのくらいあって、それがこの地域の危機を救う 1つのものになるのではないかということを経済的に納得して、そのまま踏みとどまるという選択をしたわけです。

話題提供に入ります。教育長が校長時代に、高校の地域学習の中で高校に年間2回ぐらい観光について高校生に話をする機会がありました。

話の1点目は、とにかく阿智村は観光によって成り立つ村であるという観光の重要性です。一生懸命話しましたが、観光による地域経済の発展についてはなかなか理解してもらえないところがありました。もう1点は、高校生たちが全く理解していませんけれど、このまま少子化が進み人口が減少していくと、自治体として、学校としてどうなるのかということです。人口が1人減ることで財源がどう変わり、これを埋めるためにどういう産業が必要なのかということです。単純に言えば、1人の人口減を補うためには、外国人が16人この阿智村に訪れれば財源の損失をカバーできるということです。今すぐにこの現実を改善するためには、観光産業というものがいかにこの地域経済に寄与できるかということを経済的に一生懸命伝えたのです。普段あまり考えませんが、なぜ人口が減るのかについても話して、日本にとって非常に危機なのだと納得してもらいました。残念ながら、高校生では実は遅いと思いました。小学校とか中学校の時にやらないと間に合わない、つまり、地域へのロイヤルティー(愛着)というのは多分幼少期でないと育たないと感じました。高校生に話をして意見交換をしようとするのですが、高校生ほとんど意見を言わない。これが小中学生だと好きなことと言います。高校生まで行くと、「そんな話聞きたくねえよ」みたいになってしまう。そういう意味では、小中学校の時代に、地域のリアリティーや産業についてきちんと伝える機会がもっとあったらいいと思います。

私はその観光産業の人間なので財政については多少わかっていますけれども、代田さんが言われた学校の体制の問題に関してはわかりません。ただ、観光によって地域を救うためには、次の世代になる子どもたちにどう教育していく、教育を受けるべきなのか、その部分を重く感じながら子どもたちに伝えていくという感じでございます。

伏木先生が書いたまとめの部分を読んでいて思ったのですが、結局、地域の産業を知ることを経済的にちゃんとやっていかなきゃいけないなと思いました。最後に、これは私の持論でもあるのですが、こんなところにいっちゃダメだという風に育てられました。こんな田舎ではダメだと。それはもう地域のロイヤルティーなんてもう最初からうちの親は私に伝えてない。そもそもこんなところにいたら多分成功しないから、あんたは外に行っていろんなビジネスで成功していきなさいと。要は、そろって都会に行って金持ちになって、私たちに楽にしてくださいみたいな教育です。そういう教育を私は小中高とここでずっと受けてきたので、結果的に私はUターンで戻ってきてこっちで事業をやっ

います。私は親を責めているかもしれないですが、教育が違っていたら私は多分こうなっていなかったかもしれないし、教育があったからこそ逆に戻ってきていろんな事業やろうと思ったかもしれません。ただ、いずれにしても、私は小中、特に小中ですね、両親から、こんな田舎にいても何の成功もないから、よそに行って成功してくださいと、この地域には何の魅力もないですよという風に育てられたというのが前提です。ただ、振り返ってみたら、先ほど、ちょっと過大評価かもしれませんが、昼神温泉という素晴らしい温泉がある。日本一の星空、花桃も素晴らしく咲いています。こんなにその自然資源豊かな村って実はないということです。小中の時代に教育されたらですね、私は違った人生を歩んだかもしれないという風に思いますので、こういったものを、これからの時代の子どもたちにきちんと伝えて、それが自ら学ぶ機会であるとか、我々が伝える機会をたくさん作っていくことが、この地域の未来を新しいものに作り変えていく1つのことになるのではないかなという風に思いました。

⑦代田副委員長

ありがとうございました。改めてD委員の話を受けながら、諮問の1番を皆さんと一緒にみたいと思います。町村における人口減少、高齢化が予測される状況で、地域とのつながりや関係性において、学校にはどのようなことが求められるのか。今後の観光と地域のあり方やその可能性について明らかにすることで、統廃合などの問題もありますが、D委員からご提案があったと思います。高校や小中学校の中でこのリアリティーをどうやって考えられるのか。それを作り上げていく必要があるのではないかというご意見だったと思いますが、こういうものを私たちみんなで出し合っていくということがとても大事だと思いますので、諮問の1、2、3の概要と1番についての理解促進のために司会をさせていただきました。あとは委員長にお任せしますので、皆様のご意見をいただきたいと思います。

<質疑・意見交換>

⑧委員長

今の代田副委員長のお話を踏まえ、簡潔にという制約はありますが、1人3分ぐらいでそれぞれお話いただければと思います。

小委員会では企業の人材の流出というお話もあり、子育ての難しさについても話していました。500人の大企業のマネジメントをやられていたということで、人材育成の視点があると思いますので、ご意見をいただきたいと思います。

⑨E委員

正直言って、いろいろな考え方があると思うのですが、一方で、私はたまたま学校の運営委員会にも参加していて、学校の整備作業をやっていた時にいろいろな会話をしますが、こうした委員会でこうあるべきだという話とのギャップがすごく大きいです。自分自身、どう考えていったらいいのかは、正直言って戸惑うことがあります。インターネットやYouTubeは、正直言ってできてないというのが私の現状であります。どなたかに発言をお願いいたします。

⑩F委員

先ほどのお話の中で、こんなところで成長はないと言われるとおっしゃっていましたが、戻ってきた理由は何かもう少しお聞きしたいです。

⑪D委員

私は転勤族で、当時、現在のようなインフラもなかった時代に九州に転勤だと言われました。九州は私にとってはもう外国みたい、まだ昭和の時期でめっちゃめっちゃ遠く、その話があった時に、子どもも小さかったしどうかなと思っていて時に、今でもやっていますけれど、当時の阿智総合開発というところに誘われたのが1番です。その時にそういう地域を良くする会社なんだということでしたし、第3セクターに30何歳で戻って、ここの観光産業で地域を変えられるのではないかと思います。

これ余談ですけど、この間、JR東海の人が、東京・飯田間が40分、名古屋・飯田間が20分という日本を変えられる事業に参加したかったので入社したと話してくれました。要は、日本を変えるインフラの会社に勤めたいというふうに彼は言ったのですが、私はそこまでの思いはなかった。

町をひょっとしたら変えられる可能性がある企業じゃないかなと思って戻ってきたということでございます。

⑫F委員

ありがとうございます。私もUターンして、ちょっと個人的なことを話させてもらおうと、私は薬局をやっていますが、当時、薬局ってなかったのですね。自分の場合は、阿智村にないものを作りたいという、そんな気持ちがあって、薬局を始めました。今も商工会で活動させてもらっていますが、今までのお話から、地域に伝わる思いとかその関わりが非常に大事だなと感じて話を聞きました。最近、中学校で1年生たちを呼んでその話をしてもらおうとか、2年生になると職場体験という活動を始めてくれていて協力させてもらっています。

そこで、文科省からの話にこれはやってくださいみたいな話あるかと思うのですが、それとの兼ね合いがどうなるのでしょうか。ドラスティックに、その

教育そのものについて、こういう理想の形を作っていきたいと思いますって言った時にはどうなのかと疑問に思うところもありますので、教えていただけたらと思います。

⑬伏木副委員長

ご質問いただいたように思いますので。私は、それぞれの地域の学校のアドバイザーをする時にも、学習指導要領の範囲内でやっています。ですから、話題提供した第1回の会議でも理想的過ぎるという印象があるかもしれませんが、文科省はもっと言っています。先日の高橋教授の話は、私なんかはとてもできない、領域が違うので。残念ながら、地方に出るごとにダウンしていて、保守的になるというのはわかるので、ちょっと私も力入り過ぎたかなと思うのですが、皆さん、今はこういう時代です。このように教育は私たちの子どもの頃とちょっと違って変わってきているのです。先生たちにかかっている負担も大変なのです。というわけで、自分が持っている疑問を聞いてみたいのです。

⑭D委員

1点訂正したいことがあります。昼神温泉が出湯して、ものすごくこの地域にとって大事なもの、すごいことが起こったとは思っていました。

⑮A委員

自分も小学校の運営委員をやっております。今、学校では「総合の時間」というのがあって、1年間を通して調べて、最後に学校内でそのまとめを保護者に発表するという活動をしております。これは本当に短い時間ですけど、いいところを探求し、知ることができるので、すごくいいことだと思います。

⑯G委員

地域の現状等、いろいろ意見があります。

学校のあり方と地域との関係を確認していく必要があると思います。高齢化と少子化という問題は部分であります。

今やっている通年合宿、親子留学、こういった形で子どもの人数を確保することも、いずれはできなくなると思います。実際に、3分の1が地元の子どもたち、3分の1が親子留学、3分の1が去年いらした通年合宿センター所属という割合で、現在35名ほどの児童数かと思えます。

そういう中で、昨年生まれた子どもが村全体で19名となればまた話が違ってきます。そこら辺のことを見ながら、学校のあり方とともに、地域のことを考えていくことも大切だと思います。

2年間の任期ということではありますが、検討委員会でしっかり検討していきたいと思います。

⑰ H 委員

初めての下伊那、初めての小学校勤務です。この地域だからか、小学校だからなのか、第三小学校だからなのかが全然わかりませんが、なんて地域の方と近い教育ができているのだろうと感じています。

A 委員さんは、今朝も学校にいらっしゃいました。学校でお願いしてきていただく時以外にも、しょっちゅう顔を出してくださり、アドバイスをいただいています。ここで生活している皆さんにとっては当たり前のことかもしれませんが、いろんな学校を見てきた私としては、本当に驚く毎日です。

また、これも小学校だからなのか、この地域だからなのかはわからないのですが、子どもたちが自然の中で自分から学びを発見していく姿がすごくあって、学校の行き帰りに、「先生モグラを見たよ」とか、「あれは、尻尾はこうで、あの手がこうだったから間違ない」「いや、ネズミなんじゃないか。」「じゃあ、図書館に行って調べてみよう」と教えてくれます。誰が何しろと言っているわけではないのですが、自然の中で不思議だって思ったことをすぐ本やタブレットで調べます。なんだか、この村の素晴らしさはそういうところにもあるのではないかと感じています。

⑱ I 委員

日頃、私は会社の経営をしていますので、社員の人たちの組織作りや会社のあり方というものを考えています。採用する時に見る社員の表情や姿勢から感じる自分が自分の中で深刻に感じられます。

それと並行して、自分の子どもが育ってきて学校に通う中で、教育というか子どもたちを取り巻く環境の中から、感情の豊かさや精神性の部分のギャップに戸惑いを感じ、どうしていったらいいか、どっちがいいかは別としても、私はこうあってほしいと感ずることがありました。

この先、人材が足りない状況の中で、どういう人材が必要なのかということ意識して、今いる子どもたちとの接し方や育て方というところに関わっていったらいいと考えています。それらを踏まえた上で、自分がこんな子どもたちの表情を見たいなと思う子どもたちを育てる環境が作れるのだろうか。反対に、子どもたちに願う表情が見られないとしたら、家庭環境も一部の原因かもしれないと思います。今、非常に忙しい親のところで育っている子どもたちの中には、愛情不足を感じている子どももいるのではないかと思います。兄弟間の愛情のコミュニケーションから、その人として成長していくべき心の在り方という部分に学ぶべきチャンスがないかということを感じています。

今、日本社会の課題の1つに格差社会があるのではないかと。やはり、アジアの国々のように、大勢の家族、ある意味で親戚もみんな一緒に育ってやっていく方がよっぽどいいのではないかと考えています。

そんな発想から、阿智村オリジナルのフリースクールはどうかと考えています。学校教育というものの自体は成り立たなくなっていると思うので、違う、全く違うスタイルの子ども教育、人間教育が必要なのではないか。そこで、子どもだけの村みたいな場所やエリアがあり、子どもが子どもを育てていく関係をつくる。5歳ぐらいから18歳ぐらいまでの人が共同生活をする。その中には、それぞれのレギュレーション(規則)があったり、それぞれの定義を作ってスクールができたり行動ができたりしていけるのです。

それに伴って、そこで学ぶことは何か。例えば生きてくための礼儀や知識や心を学び、農業、福祉、観光、生産とつながっている会社などと繋がって行って、子どもたちが興味のあるものに参加していく。

こうしたものができると、家族の中で愛情が育まれる時間があり、子どもたちは子どもたちの中で、家族から愛情を受けていけます。子どもが帰りたい時にいつでも帰ればいいし、関わりたいという親は関わっていけばいいと思います。そして、会社のような組織を作って子どもが運営するというものです。

先日アルバイトの子を入れたと思ったら、阿智高校の生徒は許可が下りないのでできなかったのですが、あまり勉強が得意ではない生徒は、早い段階で社会に関わらせながら、自分の好きなことを伸ばしていくことができればいいなと思っています。1番エネルギーがあり余っている子どもたちが、そのエネルギーを発散できる場所に連れて行き、人の役に立てていると思える実感や小さな成功体験を味わわせられるよう企業側から参加している私たちが考えていきたいと思っています。

今の子どもたちは、親の顔、大人の感じをすごく敏感に察知しながら、相手が欲しい答えをちゃんと言ってくる場所があります。そんな子どもたちに、違和感を覚えながら、悔しくつまらなくて、もっと子どもらしさを引き出すにはどうしたら良いかを考えていたら、私の中では小学校高学年の親子を離れた方がいいという教育論が浮かんできました。実際には大変なので、高校生から親を離すぐらいの方が親子関係もできてきているし、子どもの能力をもっと引き出していくチャンスが増えるのではないかと感じておりました。

阿智村ではどんな子どもたちを育てていくのかについてです。

当社としてこの先の採用を考えた時に、どんな人間性を持った人に来てほしいか。もちろん頭がいいことも大事ですが、頭の良さというのはちゃんと生活の中から身につけていることですが、感情が豊かであること、健康であること、問題意識が高くて興味好奇心が高い人であること、思いやりがある人、そこから出てくる自由な発想を持てる人、想像力豊かに生きて関わってくる人、対応してくれる人が欲しいです。そして実行力が高い人、そういう人たちを多く職場に受け入れたら、より楽しくて、どんどん発展していかんだろうと思います。

この先の学校のあり方でいうと、子どもの村みたいなエリアがあると良いな

と思います。学校に行きたくない、あるいはいろいろな悩みを抱えている子どもたちには、先ほどのメタバースを使いながら、この村にはちゃんと相談できる最新技術が入っていて、それぞれが子どもの可能性を生かしている、こんな場所ができたらいいいと思いました。

①9 J 委員

あまり子どもたちに関わらないのでよくわかりません。

面接することは当然ありますが、面接には様々な要素があって採用、不採用を決めていかざるを得ない世の中だと思います。

ただ、今、老人でもいいから雇っている方が良い、人が多くないから、あの人もそういう人でも集めることを考えろ、と言われていました。

ただ、外国人労働者の方が、目がギラギラしていて、「これ何？教えてください」とはっきり言えます。だけど、日本人の方がそういうことは一切言わない人が増えてきたと思います。

先ほど地域の子どものことを褒めていただいてありがとうございます。自分の子もそうでしたけど、私たちの地域ではわりかし大きな声を出す子が多いと思います。ボソボソということは地域的にあまりないので、でかい声を出して、おはようございますとか行ってきましたとか、なんか悪いことしても近所のおじさんに怒られちゃうとか、そんなことはしょっちゅうありました。人の畑に入ってスイカ取ったものだから、それを見られて怒られた。でも、親には言われなかった。そういうおじさんも今は当然いませんので、自分たちがどうやってそういう悪いことなのか良いことなのかを教える教育をもっとしないとダメなのかなと思います。よくテレビで人が刺されましたというニュースもありますけども、刺されれば痛いってわからないのか、と私自身はよく考えます。頭に血が上って人を刺しちゃうとか、そういう時代に来ているから、しゃべるにちょっと気を付けて喋らないと怖いという部分もあります。そんなことで、今なかなか人の採用って難しいものがあるなと感じております。

②0 K 委員

元気な子は元気です。静かな子は静かです。素直なお子さんは多い。素直なので嫌なものはやらないという姿もあります。

そうでない姿は前任の学校にもありました。自分が教員になった時と比べて素直な子はとっても増えていると感じます。外に自分を出すことが苦手で、自分の世界に入ることが多く、人と関わるのが苦手な子もいます。こうしたことから、部活動で考えると個人競技、集団競技の両方がありますが、今は集団競技が成立しなくなってきていると思います。

担任をやってきた感覚では、自分の中にこもる傾向がある子もみんなでやる

機会があると出てくると思っています。

② L 委員

フォーラムとかの場に触れる機会も少ないので、統合した事例だけでなく、実際、小さな学校で今もこういう活動をしているとか、こういう形で残っている学校の実例を教えてもらえれば嬉しいです。もう少し具体的な例を形として見て参考にしたいです。それを村全体に広げていただければ参考になると思っています。

(5) 協議のまとめ（伏木副委員長）

<会議録について>

基本的に公開で、委員長、副委員長は名前入りで、その他の委員 A、B、C…のように記号をつけ発言者の特定ができないような配慮をする。

<傍聴について>

各回の会議の最後に、次回の議題の内容によって、秘密会にするのかどうかの確認を委員長からしていただく。今日も最後に確認をお願いします。

<第 1 回小委員会の議事報告>

先ほどのお話のとおりだと思います。

<6 月 29 日土曜日の阿智村の教育を考える全村フォーラムに関して>

この議題の案のとおりに了承されました。

副委員長が話題提供をしますが、今日皆さんのお話を伺って、「これからの地域社会における学校の役割」というタイトルにしたいと思います。

これからの地域社会における学校の役割についてですが、私がサポートしている長野県中の学校は、みんな地域そのものの存続が危ぶまれている状況です。

学校の役割というのは進学の装置ではありません。そんな段階ではなくて、地域にとって欠かせない存在になっています。これは文科省や長野県の研究会が出していることを受けて、あまり私の考えを入れないで、地域と学校と関係で、どういうことが学校に向けられているのかという話題を提供しようと思っています。

そのところは、学校だけが主語ではなくて、家庭や地域の人にとってどういう役割が期待されているのかということ、地域というのは企業やいろいろな事業所も含まれるかと思います。代田委員からは、アンケート調査の結果を受けて、子どもたちに求められる資質・能力というような話題を提供していただきたいということでした。

<諮問内容についての意見交換>

今後の時代を見据えた学校と地域の関係性に関して様々なご意見をいた

できました。自然の中で育っているという実態、地元の役職を理解するような総合的な学習が行われていていいのではないかということ、また、学校と地域の関係について見直す意見が出されました。

2 番目の持続可能な学校のための教育制度に関しても、委員の中には、もう学校という枠組みを超えて発想することが必要ではないかという意見も出ました。漫画みたいな子どもの村というような意見が出ましたが、私はそれを聞いていて、むしろ学校そのものが子どもの村なのではないかという気もしました。そうでないとすれば、何が問題なのかを話題にしたいなという風に思いました。

諮問の3つ目では、これから子どもたちに育むべき資質・能力ということでも様々な意見が展開されました。繰り返しますが、双方に分かれていたかという印象を持っています。一方では、昔の時代はこういうものが家庭の中で育まれていた、地域や学校の中で育まれていたことが、今はそうでないというような背景に関するご意見と、これからの時代の子どもは昔の私たちの子どもの時代とは違うものが求められているのではないかという意見と、これは対立ではなくて、どういう風にこれを整合しながら村全体で考えていくのかということが、6月29日のフォーラムで議論しなければいけないかなと考えています。

今、子どもがどうなっているのかという実態調査がいろいろなところでされていますので、先生方の肌感覚のご意見、地域の方のご意見も、実際、データとして話題提供したいと思いました。

今回の委員会に関して議題の整理が少し不十分だったかと思いますので、今日の会議で出された様々な意見の確認をさせていただきました。

①委員長

今回は7月12日の小委員会ですが、オープン(公開)でよろしいですね。

6月29日のフォーラムには委員にもご出席いただいて、公開という形で認めていただきたいと思います。

今日ご発言いただけなかった方の発言の場も何かいただきたいのですが、次の会議がだいぶ先になるので、事務局の方で案を考えてください。

②J 委員

チラシは学校で配布されているのですが、申し込みのメ切はいつですか。

先ほど言った子どもたちにはどのように周知をするのですか。

③松澤専門主事

先月の広報あちで地域の方全体にチラシを入れました。PTA の方には保育園

小学校、中学校を通してお配りしてあります。中学生の参加については、阿智中にもお願いをして声をかけていただくことになっていますし、高校生には去年、阿智中を卒業した生徒には1人1人家庭に郵送します。大勢の方に参加していただきたいと思っています。

④E委員

小学生に話を聞いたり、意見を言ってもらったりする機会はあるのですね。

⑤教育長

来ていただいて聞いていただくのはいいですが、大人の中に入って話し合いをするのは難しいという気がします、いかがでしょうか。

⑥松澤専門主事

もちろん親と一緒にいてもらって聞いてもらうのはいいと思いますが。

⑦伏木副委員長

最初は中学、高校生ぐらいがいいのかなと思っていたのです。正直言うと、小学生までは、なかなかこういった話題で参加するのが難しいのかなと思いながら、E委員の意見にあるように、もちろん小学生に来ていただいて、お母さんやお父さんと一緒に加わっていただくぐらいまでは対応できるかなと思っています。

⑧I委員

小さな子どもだけのグループを作ってはどうか。

⑨教育長

小学生だけのグループを作るとなると、学校へ依頼するなどの準備が必要になります。児童生徒からのアンケートをとりますし、今後意見を聞く機会は1回だけではないので、できることから今後検討させてもらうということでしょうか。

⑩L委員

お母さんがお子さんと参加することはまったく良いと思いますが、予想以上にお子さんが増えたら、どう対応しますか。

⑪伏木副委員長

予想以上に増えたら、私がグループに入って対応します。

⑫M委員

子どもたちも行きたいという気持ちはあるけれど、移動手段がなかったら多分来られないと思うのですが。

⑬教育長

参加者が1人、2人ですと送迎は難しいかと思います。大勢いるようなら、検討させてもらいます。

⑭D委員

次の予定があるので、これで失礼します。定刻に終わっていただくと非常にありがたい。どうぞよろしくお願いします。(退席)

⑮委員長

時間になりましたので、終了したいと思います。事務局より連絡をお願いします。

5 連絡（松澤専門主事）

連絡手段であるテトルの登録がまだの方は、再度ご確認ください。

次回の会議予定は7月12日の小委員会です。

10月4日の委員会では、会議後に懇親会を企画する予定です。詳細についてはテトルでご連絡します。予定を空けておいていただければと思います。

6 閉会の言葉（松澤専門主事）

以上で第2回学校のあり方検討委員会を終了させていただきます。

7 次回会議

(1) 第2回小委員会 7月12日(金)16:00～18:00 公民館3・4会議室

(2) 第3回委員会 10月4日(金)16:00～18:00 コミュニティ館2階ホール
(閉会 午後6時26分)

教育長・委員長 署名／捺印